

皆様の情報誌です。ぜひ、ご家庭にお持ち帰りください。 <http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/>



琉球大学医学部附属病院長・
第二外科長

國吉 幸男

特集 病院新体制

今必要なのは、地域での専門医療

国立大学の法人化に伴い、大学附属病院も大きく変貌してきました。従来、大学病院の使命として、1) 研究、2) 教育、3) 診療、の3本柱が謳われ、護送船団方式で国の庇護のもと研究、教育、診療が行われていました。しかしながら、法人化後は大学病院の裁量の一部を認める代わりに、その経費負担をほとんど自ら行う原則独立採算制がその大きな骨子となっています。従って、大学の重要な使命に、4) 健全な大学病院経営が付け加えられています。むしろ、この部分の比重が増してきています。

しかしながら、地域における大学病院の果たす役割は従来より変わるものではありません。特に島嶼県である沖縄県における琉球大学医学部附属病院の役割は、先進、高度医療を含めて沖縄県内で完結する“完結型医療”が目標です。その目標に向けた多くの関係者のご努力がたゆまなく続けられ、専門医育成を行いながら質の高い優れた高度医療が実施されています。沖縄県の医師数は復帰当時より最近まで常時最下位でした。しかし、ここ数年は急速に増加し現在では全国でも中位以上まで増加してきています。その増加の大きな要因は、毎年の琉球大学医学部の卒業生です。県内の総医師数は3,200名余ですが、現在は、その半分以上を琉大の卒業生が占めるに至っています。しかしながら、本県では地域における専門医師の充足度においてはまだ十分であるとは言えません。特に、離島、僻地では不足している専門分野が多く、それらの地域から中央に専門医受診目的に出かけてきている現状があります。国全体をみても同様であり、医師数が増加しているにも関わらず専門医師の遍在化現象が生じ、都市部に多くの専門医が遍在しており、このことが医療を受ける機会の不平等を引き起こしています。国はこの遍在状況に対応すべく、新しい専門医制度を構築しその専門医師配置調整までを行う施策が現在進行中ですが、その実効性や、それが奏功するまでにまだ期間を要する等多くの懸念があります。そのため地域医療における大学病院の重要性が以前にもまして大きくなってきています。そして、専門医教育が行われ、また質の高い医療を提供出来る人材を教育・育成している大学病院の地域医療における役割を捉え直し、量から質へ変換し、地域における専門医療の充実との観点から更に地域医療に貢献すべきであると考えています。現実に地域住民から専門医の派遣要請が多く、それに対して無理なく応えうるのも大学病院の地域医療へ果たす使命の一つではないかと考えています。



南に開かれたリーディングホスピタルたる 新生琉球大学病院をめざして

石内 勝吾

副病院長・脳神経外科長

本年1月に國吉病院長を支える新しい執行部の一員に加わりました脳神経外科の石内でございます。琉球大学医学部附属病院は旧国立大学の中で唯一再整備が開始されていない大学病院となっています。来るべき東アジアの時代の幕開けにふさわしい南に開かれたリーディングホスピタルたる新生琉球大学病院をめざして皆様方とともに病院作りに専念したいと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

新しい病院は旧来の病院のリニューアルではなく全く新しい発想で作る事が大切であると思います。世界的な建築家の安藤忠雄氏から病院建築の助言として「プールを作れ」といわれました。患者さんのためではなく忙しい医療従事者のために。安藤氏ご自身ががんの手術をした時の経験から深夜まで手術していた主治医が朝8時には回診している姿を見て医療従事者がまず元気でないと病院はいけなそうだと思います。若い職員の新しい発想を遠慮なく執行部に提案していただきたいと思います。

収益性と安全性の追求に加えて新しい発想で新しい時代の幕開けを迎えるために日々努力を惜しまない一日常業務は凡事徹底の精神で—どうぞよろしくお願いたします。



琉球大学医学部附属病院の高度・先進・ 安全医療

澤口 昭一

副病院長・眼科長

医学・医療の進歩は目覚ましく、ついこの前までは手術が治療の中心であった病気がいつの間にか薬物で治療されているということがよくあります。例えば、胃潰瘍は私が新潟大学の医学部学生の際は開腹手術で治療されてきました。私の高校の同級生は受験勉強真っ最中に潰瘍になって手術を受け1年を棒に振りました。私もアメリカ留学中に潰瘍になりましたが、当時普及し始めていた抗潰瘍薬で治りお腹を切らずに済みました。さらに今ではピロリ菌を除菌し潰瘍どころか、胃癌まで減らしています。

眼科領域では20年前までは白内障は水晶体を全部取って、術後は分厚い眼鏡の使用を余儀なくされていました。このため日常生活に困るまで手術をしませんでした。しかし今では超音波白内障手術で、安全に比較的短時間に手術が行われています。少しでも白内障で見づらくなると視力は正常に近くても患者さんの希望次第では手術を行います。沖縄県では閉塞隅角緑内障の頻度が本土の約4倍と非常に多いことを久米島研究（2005）で明らかにしました。閉塞隅角緑内障も実は多くの患者はこの白内障手術で治ります。緑内障が白内障の手術で治るということは以前には全く考えられませんでした。

本院では多くの診療科で本土の国立大学附属病院に追いつけ・追い越せを目標に研究、診療に励んでいます。常に最新の治療法の導入と治療成績の向上を目指し、安全で確実な再現性の高い医療の提供に努めています。今後とも病院職員一丸となって医療レベルの向上を目指し進化を続けていきます。皆様の温かい叱咤・激励とともにご理解とご協力をお願いします。



病院情報システムと臨床研究倫理審査を担当しています

青木 陽一

副病院長・産科婦人科長

病院情報システムについてですが、病院には多くの部門（各診療科、検査部、放射線部、病理部、薬剤部、看護部、事務部等）があります。これらの部門が連携・協力して診療することで、病院機能を十分に発揮することができます。病院情報システムとは、診療する上で必要な様々な情報を共有・伝達し、病院業務をサポートするコンピューターシステムのことです。電子カルテを中心としたこのシステムにより、病院業務の精度向上と効率化をはかり、究極の目的としては「患者さんに良質で安全な医療を快適に受けていただく」ことが病院情報システムの役割です。現在、琉大病院ではこのシステム更新—新しい電子カルテへの切り換え—の時期を来年2月に控え、職員がより使い易く、患者さんにより快適に大学病院として相応しい“ジョートー(上等)な”医療を受けていただけるよう、鋭意準備を進めています。

もう一つの担当は、臨床研究倫理審査です。これに関連して近頃、降圧剤の臨床試験やSTAP細胞などが世の中を賑わしていますが、臨床研究は日に日にその重要性を増しています。というのは、本当に最良の治療法かを確認するには、臨床研究に頼らざるを得ない場合が多く、そしてこの「臨床研究を行う場合、被験者である患者さんの福利に対する配慮が、科学のおよび社会的利益に優り、患者さんの尊厳や人権を守ることが絶対条件」であります。これが臨床研究倫理であり、これに違反がないか琉大の臨床研究の倫理審査をしています。年々審査件数はうなぎ登りに増えていますが、医療技術の進歩と患者さんを守るため、厳しくチェックしていきます。



安全で安心な医療を目指して

近藤 毅

副病院長・精神科神経科長

平成26年1月より、副病院長として医療における安全管理対策を担当しています。これまでは、精神科神経科長として主に科内の診療の流れに気を配ってまいりましたが、当科においても身体的リスクを抱える患者さんは多く、安全な医療を心掛けるためには意識的な対策が必要でした。本院全体を見渡しても、医療は日進月歩で高度化しており、最新の医療器材や機器の導入によるモニタリングや新しいテクノロジーを取り入れた先進医療に目が向かいがちですが、基本的には人間が医療を行っているということを忘れてはならないでしょう。

安全管理対策室長を経験して、医療にリスクが付随することが不可避であることを実感するとともに、完全無欠な医療に向かうよりも安全を底支える知識や対策を充実させ、セキュリティに厚みのある医療を目指すことがむしろ重要であると痛感します。ヒューマンエラーは必ず起こります。しかし、小さな失敗のうちに学べれば大きな事故には至りません。また、エラーに焦点を当てるばかりでなく、機能的な部署においては、なぜうまくいっているのか、についても着目していければと考えています。インシデント・レポートは安全情報に再利用して共有され、安全管理の巡視は各部署での工夫を発見しその普及を図る目的も備えています。

安全な医療を目指すためには、皆様から積極的な情報提供が必要です。それは、患者さんが安心できる医療を提供するばかりでなく、医療を行う当事者であるわれわれを守ることにもつながるのです。安全管理においても県民からの信頼度が高い琉球大学医学部附属病院であり続けたいと思います。



沖縄医療の未来を担う“輝く医療人”を創る

益崎 裕章

副病院長・第二内科長

平成26年1月より教育・研修担当の副病院長を仰せつかりました。若輩者で至らぬ点が少なくないと思いますが、琉球大学医学部附属病院の職員の皆様、沖縄県の医療関係者の皆様におかれましては倍日の御指導・御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

明治の元勳、江藤 新平(明治新政府の初代“法務大臣”)は人間の業績を3つのランクに分け、下位は財産を成した人、中位は業績を成した人、上位は優れた人材を育てた人であると記しています。超高齢化社会の到来を間近に控えた今、琉球大学医学部附属病院では生涯持続力と自己改新力を発揮しながら未来の医療を開拓する優れた医師の養成に総力を挙げて取り組んでいます。私達を取り巻く医療情報は最近10年で20倍以上に膨張しており、昔ながらの研修方法や勉強法ではもはや通用しない時代です。毎年、毎年、膨大な種類の新薬が登場し、診断技術や治療技術も目まぐるしい進歩を遂げています。“たった3年”で医療の風景は大きく様変わりします。現代の医師は“時代の要請と社会のニーズ”を鋭敏に察知し、“専門性と総合性のバランス”を上手に取りながら、生涯にわたって研鑽を積み、成長と進化を続ける人生を歩むことが求められています。

輝き続ける医師を育成するためには医師デビューから最初の数年間に授ける初期臨床教育の内容が決定的な意味を持ちます。琉球大学医学部附属病院における臨床研修と医師教育の一層の充実と質の向上を目指し、“先生が私の主治医で本当に良かった! ”、“先生と一緒に仕事が出来て本当に幸せ!”と患者様や医療スタッフから御評価を戴けるような人格・実力相俟った素敵な医師をたくさん育てていきたいと願っております。



安心・安全な看護の提供 看護方式パートナーシップ・ナーシング・システムについて

下地 孝子

副病院長・看護部長

看護部門では、平成25年度より看護提供方式として、パートナーシップ・ナーシングシステム(PNS)を導入しましたので紹介いたします。Partnership Nursing System(PNS)とは、看護師が安全で質の高い看護を共に提供することを目的とし、**2人の看護師がよきパートナーとして、対等な立場で、互いの特性を活かし、相互に補完し協力し合う看護提供方式**のことです。2人の看護師は、1年を通じたパートナーとして、毎日の看護ケアをはじめ、受け持ち患者さんの看護について**責任を共有**する仕組みとなっています。

右の写真は、患者さんのベットサイドを訪問する前に本日の治療・処置・ケアの予定を確認し、どのようなタイムスケジュールで進めるか、打ち合わせを行っている場面です。複数の目で確認することで、安心・安全な看護の提供につながると考えています。また、経験の浅い看護師であっても、先輩看護師と相談しながら業務を進めるため、患者さんからも「安心できる」との評価を得ています。チーム一丸となって、患者さんの病状や治療に伴う様々な不安や苦痛について、一緒に考えサポートいたします。患者さんやご家族の方にも、医療のパートナーとして参画していただきますよう、よろしく願いいたします。





安全な手術環境を提供する麻酔科

垣花 学

麻酔科長

平成26年5月1日付で琉球大学医学部附属病院麻酔科の教授に就任いたしました。私は平成3年に琉球大学医学部医学科を卒業し、のべ2年間の米国留学と21年間の麻酔科医としての臨床を過ごさせていただきました。これまで琉球大学医学部附属病院、沖縄赤十字病院そして沖縄県立宮古病院で麻酔科医として勤務し、およそ1万例の麻酔科管理に携わりました。琉球大学医学部附属病院麻酔科には、13名の麻酔専門医と2名の集中治療専門医、3名のペインクリニック認定医がおり、それぞれの専門的診療を行っており、全国的にもレベルの高い医療を提供しております。

われわれ麻酔科医の使命は、手術を受けられる患者様に、安全な手術環境を提供することを第一としております。最近の手術技術の進歩には目覚ましいものがあります。特に最先端の医療を提供する琉球大学医学部附属病院では、他の病院では実施できない手術手技を患者様に提供しますが、同時に他の病院で全身管理をすることが難しい状態の患者様に医療を提供するという使命もあります。このような管理を成功させるには、麻酔科医の役割は大きく、麻酔科医と外科系医師が協力することで安全な手術を提供しています。これからも、琉球大学医学部附属病院の麻酔科は患者様の安全を第一に診療に従事していく所存です。何かお困りのことがあれば、遠慮なく麻酔科外来にお越しください。



放射線部の一員として思うこと

青山 信和

放射線部 診療放射線技師長

前任の與儀 正技師長から櫓を受け取り、4月より琉球大学医学部附属病院放射線部の5代目技師長として赴任いたしました。創設以来脈々と受け継がれている良き伝統は継承しつつ、時代の変革に取り残されることなく柔軟に対応し、後世に櫓を渡す役目を任されましたことは、身の引き締まる思いです。

私は兵庫医科大学病院に19年間、神戸大学医学部附属病院に8年間勤務してまいりました。琉大病院で3つ目の大学病院勤務となります。この経験を生かして、それぞれの長所を琉大風にアレンジし、スタッフみんなでの協議の上で取り入れていければと考えています。

われわれ診療放射線技師が、レントゲン技師やX線技師と呼ばれていた時代から比べますと業務内容も多岐に渡り、より専門的な知識と技術が要求されるようになってきています。そのニーズに答えることのできる人材の育成も、放射線部の大事な役割のひとつです。また、放射線部では医師・技師・看護師・事務員と他職種が一緒に業務をしています。これらスタッフ間のチームワークの良さも、患者様が安心して検査や治療を受けていただくための大事な要素となります。幸い琉大病院での印象はとても良く感じました。しかしそれに甘んじることなく、みんなが幸せに働いていける環境作りに尽力していく所存ですので、今後ともよろしく願いいたします。



～食事療法の未来を拓く！琉球大学医学部 附属病院 栄養管理部 誕生！～

山川 房江

栄養管理部 副部長



平成26年4月1日より医療支援課栄養管理室から琉球大学医学部附属病院における食事療法のセンター機能を担う“栄養管理部”として新しく生まれ変わりました。これまでのスタッフに加え、事務スタッフや委託側栄養士が材料管理に関わります。カロリーや減塩、蛋白制限など療養のための制約が多い状況でも患者さんから『食事が楽しみ！』と感じて戴けるよう心掛けます。医師、病棟スタッフ、メディカルスタッフとの連携を強化し、栄養と食のプロとして栄養指導や病院食の充実を通して沖縄県の健康長寿復興に寄与できるよう努めます。

入院中の食事は医療の一環として提供されるものですが、治療の内容によっては食べられない状況も生まれます。そんなときは、木目細かな病棟訪問によって患者さんが食べられそうな料理を伺います。麺料理を好む患者様が多いことを踏まえ、日替わり麺料理の対応も始めました。

全診療科を対象にスタートしたNST（栄養サポートチーム）は医師（内科・外科）・薬剤師・看護師・言語聴覚士・臨床検査技師が関わり、治療に伴う栄養障害を減らすよう、改善できるよう、総合的な医学サポートを展開しています。

入院中の患者さん、外来通院の患者さんを対象に多彩なプログラムを用意し、個人指導・集団栄養教室を実施しています。多くの合併症で難渋することもあります時間がかけて患者背景を伺い、オーダーメイドの食事療法を指導しています。

栄養管理部部長の益崎教授（第二内科）の指導の下、玄米ご飯を提供できるようになりました。全国の医学部附属病院の中で初めての画期的な試みです。マッシュ食やきざみ食を食べられない患者さんには口腔外科・耳鼻科医師の指導の下、ソフト食を提供しています。産後のお母さんには出産祝い膳の提供、正月の夕食には漆塗りの重箱で食事の提供を行っています。



医療スタッフの紹介



女性ならではの！の視点で良質の医療を実践し、輝いていきます！

仲地 佐和子 骨髄移植センター 副センター長

皆様、初めまして。このたびHOTLINEで紹介していただく運びとなりました仲地 佐和子です。血液内科専門医として第二内科に所属しています。骨髄移植センターの副センター長も併任しており、9階西病棟（第二内科）の病棟医長も任されています。たくさんの御仕事があり、とても忙しい毎日ですがやり甲斐を感じ、とても充実しています。血液内科の診療は一般の方には馴染が薄いかも知れませんが、貧血や白血病、リンパ腫などの病気を扱う分野です。化学療法（抗がん剤治療）や骨髄移植など、疾患の特性上、重症の患者さんを診療することが多いです。血液内科で診療する病態は多岐にわたり、予想外のことが次々に起こります。それらに早期に対応し適切に解決するには医師のちからだけでは不可能で看護師、看護助手、薬剤師、栄養士さんなど多職種スタッフのサポート体制が必須です。患者さんとの良好なコミュニケーションは勿論、スタッフ相互の意思疎通を緊密・円滑に保つチームワークの良さが何より重要と考えています。重い病気が多いので雰囲気は暗くなりがちないイメージもありますが、女性ならではの！の明るさや優しさ、心配り、時には楽しい世間話を織り交ぜて、同じ目標に向かう患者さんとの時間を大切にしています。血液内科は学問そのものも実際の臨床現場も決して楽ではない診療科ですが、女性ならではの！の感性を活かしたチームワークによって良質でハイレベルな医療を提供できるよう、日々、爽やかに、明るく輝いて頑張っています。



今後とも本誌をよろしくお願いします。

翁長 佑衣 医学部 総務課

HOTLINEをお読みくださった皆様、初めまして。今号から編集担当となりました翁長です。さて、今号は、本院の新執行部やフレッシュな先生方、施設をご紹介しました。患者さんを第一に考え、大学病院としての使命を果たそうと日々奮闘されている先生方やスタッフの皆様の熱い思いに触れ、私も、編集担当として、皆様により愛される病院となるよう、微力ながら努めてまいります。今後ともHOTな情報を発信いたしますので、ご愛読いただけましたら嬉しいです。

外来診療日割表

※曜日枠に赤まる●が付いた曜日が外来診療日となります。外来の際にご確認ください。

※診療受付時間は午前8時30分から午前11時まで、診療開始時間は午前9時です。 平成26年7月1日現在

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備考
第一内科	感染症内科	●	●		●	●	新患は要紹介状 肺腫瘍 びまん性肺炎患 糞線虫外来：木曜日 月曜日午後：B型肝炎訴訟診療（要予約）
	呼吸器内科	●	●		●	●	
	消化器内科	●	●		●	●	
第二内科	血液内科（骨髄移植外来）		●	●		●	新患は要紹介状 糖尿病外来は専用フォーム有 （院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約）（院内紹介：第二内科医局で予約（内線2350））（月曜日は、入院患者の紹介のみ） ※膠原病・リウマチ内科は専門医の確保が出来るまで休診（再来のみ可）
	成人T細胞白血病リンパ腫外来 肥満症（生活習慣病）		●	●		●	
	糖尿病・内分泌・代謝内科	●	●	●		●	
	膠原病・リウマチ内科		●	●			
	骨粗鬆症・男性更年期（LOH） 女性医師による女性外来		●	●		●	※女性医師による女性外来は要予約（院外からの紹介は、医療福祉支援センター・内線1371で予約）
第三内科	神経内科	●		●	●		新患は要紹介状 ※神経内科の新患外来は、紹介病院からの予約のみ。 再来は要予約
	高血圧・腎臓内科	●		●	●	●	
循環器科	高齢者内科			●	●	●	新患は要紹介状
	循環器内科	●		●	●	●	
第一外科	上部消化管外科	●		●			肛門疾患：新患は要紹介状 要予約（院外からの紹介は、医療福祉支援センター・内線1371で予約）
	下部消化管外科	●		●	●		
	肝胆膵外科	●		●	●		
	乳腺・甲状腺外科 小児外科	●		●			
第二外科	呼吸器外科		●		●		血管外科：新患は要紹介状、院外は要予約（医療福祉支援センター内線：1371で予約） 木曜日：院内紹介のみ（主にDVT、静脈瘤）
	心臓血管外科		●			●	
脳神経外科	脳神経外科	●		●		●	新患は要紹介状、要予約 他科・他院からの紹介・予約患者は10時～11時に受付（院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約） 緊急を要する患者は医局1171または病棟3801へ連絡し当日の当直医（担当医）が対応します。 ※血管内専門外来は月、金曜日
	脳神経外科	●		●		●	
整形外科	手の外科	●		●		●	新患は要紹介状 ※骨・軟部腫瘍：新患は水曜日のみ ※小児整形：毎月第1金曜日は休診
	リウマチ	●		●		●	
	骨・軟部腫瘍	●		●		●	
	脊椎・脊髄	●		●		●	
	スポーツ医学（膝） 骨粗鬆症 小児整形	●		●		●	
産科婦人科	新患・一般再患	●	●	●	●	●	火曜日・木曜日：予約再来のみ
	産科	●	●	●	●	●	
	婦人科	●	●	●	●	●	
小児科	生殖不妊・内分泌・骨粗鬆症	●	●	●	●	●	新患は要紹介状
	新患・一般再患	●	●	●	●	●	
	生活習慣病・内分泌	●	●	●	●	●	
	遺伝・先天代謝異常	●	●	●	●	●	
	神経	●	●	●	●	●	
皮膚科	新生児	●	●	●	●	●	新患は要紹介状
	皮膚科	●	●	●	●	●	
	皮膚外科	●	●	●	●	●	
	乾癬 強皮症・皮膚筋炎	●	●	●	●	●	
泌尿器科	泌尿器科	●	●			●	新患は要紹介状、要予約（院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約） ※月曜日：小児泌尿器科 腎移植外来：月曜日は再来のみ
	腎移植外来	●	●			●	
耳鼻咽喉科	新患	●		●	●	●	新患は要紹介状
	甲状腺・頭頸部腫瘍	●		●	●	●	
	鼻副鼻腔・アレルギー	●		●	●	●	
	中耳炎・難聴・めまい・顔面神経	●		●	●	●	
	人工内耳	●		●	●	●	
	幼児難聴・補聴器	●		●	●	●	
	形成・外傷・味覚	●		●	●	●	
口腔咽頭・唾液腺・音声・嚥下 頸部エコー外来	●		●	●	●		
眼科	緑内障	●	●	●			月曜日は外来者の新患及び再来予約のみ 月曜日の神経、腫瘍は午後の再来のみ
	小児眼科	●	●	●			
	網膜硝子体 角膜 神経・腫瘍・ぶどう膜 一般再患	●	●	●	●	●	

※曜日枠に赤まる●が付いた曜日が外来診療日となります。外来の際にご確認ください。
 ※診療受付時間は午前8時30分から午前11時まで、診療開始時間は午前9時です。

平成26年7月1日現在

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備考	
精神科 神経科	新患		●		●	●	新患は予約制(院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) (院内他科通院中の方は当科外来受付・内線1306で予約) ※紹介状も必要です。	
	一般再来		●		●	●		
	児童・思春期外来	●						
	周産期支援外来	●						
	光トポグラフィ外来	●				●		
放射線科	放射線診断・IVR			●		●	新患は要紹介状 甲状腺は水曜日のみ 重粒子線治療相談外来は水曜日のみ	
	CTガイド下・PVP			●				
	甲状腺・RI		●	●				
	放射線治療		●	●		●		
麻酔科	麻酔科	●		●		●		
	ペインクリニック	●		●		●		
歯科 口腔外科	新患・一般外来	●	●		●	●	新患・一般外来：月～金曜日(水曜日を除く)	
	口唇・口蓋裂	●						
	顎変形症	●						
	腫瘍		●					
	顎関節症				●			
	外傷				●			
	口腔ケアセンター	●	●		●	●		
リハビリテーション部	リハビリテーション部	●	●	●	●	●	当院リハは入院患者のみ。以外は電話にて要相談 新患は火・水・木曜日(要リハ紹介状) (月・金午前は検査優先)	
高気圧治療部	高気圧治療部	●	●	●	●	●	新患は要紹介状 新患は午前11:00まで、救急は要連絡	
血液浄化療法部	血液浄化療法部	●	●	●	●	●	土曜日は再来のみ	
地域医療部	地域医療部		●		●	●	木曜日は第2・4の午前中のみ	
総合診療センター	総合診療科部門	●	●	●	●	●	総合診療科部門は午前のみ ※外来患者のみ 火～金曜日の午前中・予約制 完全予約制・院外からの紹介患者のみ (医療福祉支援センター・内線1371で要予約) 第3金曜日の午後のみ ※事前予約が望ましい	
	禁煙外来		●	●	●	●		
	ものわずれ診断外来	●			●	●		
がんセンター	緩和ケア外来(身体的緩和部門)	●	●	●	●	●	新患は要紹介状(火・木曜日は予約制)	
	(精神的緩和部門)		●		●			
救急部	救急部	24時間診療						

本院の理念及び基本方針

理念

病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。

基本方針

1. 生命の尊厳を重んじた全人的医療の実践
2. 地域における保健・医療・福祉の向上に対する貢献と関連機関との連携
3. 先端医療技術の開発・応用・評価
4. 国際性豊かな医療人育成

患者さんの権利と責務について

琉球大学医学部附属病院では、患者さんを中心とした「安全・安心・思いやり」に基づくより良い医療を目指しております。患者さんとの深い信頼関係の上に成り立つ医療の大切さを十分に理解するとともに、患者さんには一人一人に次のような権利と責務があることを確認いたします。

●患者さんの権利●

1. あなたは、どんな場合でも、一人の人間として扱われる権利があります。
2. あなたは、どのような境遇、環境であっても、専門家による平等で良質な医療を受ける権利があります。
3. あなたは、病気のことや治療について十分教えてもらう権利があります。
4. あなたは、治療について意見を述べる権利と選択できる権利があります。
5. あなたは、あなた自身の話したこと、病気、身体について知られたくないことを守られる権利があります。

●患者さんの責務●

1. 最善かつ適切な診療を行なうために、あなた自身の健康状態についてできるだけ正確に伝える責務があります。
2. 主治医や担当医の治療や退院計画に主体的に取組み協力する責務があります。
3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるように、病院の規則に従い、医療の妨げとならないように協力する責務があります。特に攻撃的な態度や暴言、乱暴な行為は謹み、施設の所有物を大切に使うようにして下さい。

平成22年8月

本院までの交通機関



- 那覇バス
所要時間:那覇バスターミナルより本院まで約50分
- 97番 琉大線
経路:那覇バスターミナル～牧志～儀保～琉大病院前～長田～中部商業高校前～琉大北口
タクシー・乗用車での所要時間
●那覇市街より約25分 ●沖縄市街より約20分
●那覇空港より約35分 ●モノレール首里駅から10分
※モノレール儀保駅からバス(97番)で30分

附属病院
ホームページが
携帯サイトからも
閲覧できます。

携帯用QRコード



ボランティア募集

本院では、一般の方からの病院ボランティア(外来ロビーでの案内・補助等)を広く募集しております。空いている時間を利用して、一緒に参加してみませんか? まずはお気軽にご連絡下さい。
【連絡先】総務課総務係 (098-895-3331 (内線: 2102))

琉球大学医学部附属病院 電話(098)895-3331(代表) 〒903-0215 沖縄県西原町字上原207番地
<http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/>